

## プロフィール

江蘇省呉江県に生まれた費孝通氏は、はじめは医学を志したが、しだいに個人の病よりも社会の病を治療すべきだと考えるようになる。燕京大学、清華大学大学院で社会学・人類学を学び、書物中心の学問から実地調査による中国社会研究を志すようになった同氏は、故郷での農村調査後、ロンドン大学に留学し、社会人類学の父マリノフスキー教授に師事。のちに、『中国の農民生活』（1939年）を著し、一躍国際的評価を得た。中国農村研究の古典ともいべきこの書は、戦前の日本でも訳書が出され、多くの影響を与えた。新中国成立後、民族学者として少数民族の調査、指導にあたるが、反右派闘争、文化大革命とあいつぐ歴史の変動の中で、研究活動が20年近く阻害された。しかし、文革終焉後、復帰、調査・研究活動を再開し、中国社会学会、中国社会科学院社会学研究所の設立に貢献するなど、民族学の振興とともに社会学の再興に心血を注いできた。

社会学・人類学の方法を欧米に学んだ費氏は、それを中国の伝統文化、地域的多様性に適合させて独自の方法論を創出。半世紀にわたり中国社会の変化を世界に紹介し、もっとも著名な中国の社会学者・社会人類学者として評価されている。学術活動が中国社会の発展につながるという若い日からの信念を一貫させ、中国の現代化、開発問題にも尽力。80歳を超える現在も精力的に実地調査を行い、中央民族学院教授、北京大学教授、中国社会学会名誉会長等の要職にあって、名実ともに学界の中心として今なお活動中である。

### 主な著作

*Peasant Life in China*, ロンドン, 1939

(邦訳『支那の農民生活』1939), (『江村経済』淮陰(江蘇省), 1986)

『禄村農田』重慶, 1943     *Earthbound China*, シカゴ, 1945

『生育制度』上海, 1947 (邦訳1985)     『郷土中国』上海, 1947

『民族与社会』北京, 1981     *Toward a People's Anthropology*, 北京, 1981

*Chinese Village Close-up*, 北京, 1983 (邦訳『中国農村の細密画』1985)

『小城镇大問題』(編著) 淮陰(江蘇省), 1984

『小城镇四記』北京, 1985 (邦訳『江南農村の工業化』1988)

*Rural Development in China*, シカゴ, 1989     『社会学在成長』天津, 1990